歴史講座

物語が始まる前の話

平家物語

源氏と平家

源氏と平家、もとは同じ根っこにつながります。

臣籍降下

昔の天皇には、正室の他に側室の方が沢山居ました。

そのため、たくさん皇子皇女が生まれるわけです。２～３人ならともかく、時には20人30人といらっしゃいました。

その20人から、それぞれに20人30人生まれて、また20人30人・・・ねずみ算方式に増えていきます。

このままでは、日本中皇族であふれてしまいます。また、養う予算も無いです。

で、時の天皇は考えました。

お前すまんがのぉ、もう天皇家では面倒みきれんよ。黙って民間に下ってくれ。はあそうですか。仕方ありませんねって話に。パパンパンパン

このように、もともと皇族の方が主に経済的な理由から民間に下って、臣下の身分になることを、「臣籍降下」といいました。

そしてこの「臣籍降下」をする時に、源とか平とかの姓をたまわるわけです。

桓武平氏

第50代桓武天皇…平安京を開いた桓武天皇の曾孫にあたる高望王が「平」の姓をたまわり、「平高望」と名乗りました。

これが桓武平氏の初代平高望です。パパンパン

もとをたどれば桓武天皇に行きつくということで平高望の系統を「桓武平氏」といいます。

「平」の字は、桓武天皇が遷都した都である「平安京」からとったという説がもっとも有力です。パパンパン

この「桓武平氏」のほかにも始祖となった天皇によって「仁明平氏」「文徳平氏」「光孝平氏」とぜんぶで４系統ありますが、「桓武平氏」が一番栄えました。

伊勢平氏

「桓武平氏」は初代平高望の時は関東に定着していましたが、高望から数えて４代目の平維衡の時に伊勢の国に下ります。

伊勢は上総に比べたらずっと都に近いため、その地の利を活かして徐々に都に進出して官職を得て、中央政界に食い込んでいくのであります。

パンパン

時は流れ、清盛の祖父正盛、父忠盛のころになると、だいぶ中央政界に入り込んでいました。

この維衡以来の伊勢の国にくだった平氏を特に伊勢平氏と呼んでいますが、中でも特に特正盛忠盛清盛の系統を**「平家」**といいます。

ほかの系統の平氏と区別して、特別に「平家」と言っているわけです。

京都鴨川東の「六波羅」という地域に広大な屋敷を築いて、平家全盛期を築いた、いわゆる「平家一門」というものです。

清和源氏

そして一方の源氏ですが、ルーツとなる天皇によって多くの系統に分かれます。

特に有名なものが56代清和天皇をルーツとする清和源氏です。

56代清和天皇の孫経基王が臣籍に降下して「源」の姓を賜り、「源経基」と名乗りました。これが清和源氏の初代、後の源頼朝につながっていく血筋なのであります。

パパンパンパン　パパンパン

というわけで桓武平氏と清和源氏、おもに二つの系統があったわけです。

だから別に最初から敵同士という訳でもなかったのです。

長い歴史の間には源平で争うこともありましたが、そうかと思えば源平で協力して事に当たることもあったとか・・・。

また平氏内部での争いもあれば、源氏同士で戦うこともあったと聞いています。

しかし、時は流れ流れて・・・清盛の時代には、二つの大きな合戦がありました。

保元の乱と、平治の乱です。

非常に入り組んだ、ごちゃごちゃした戦いです。

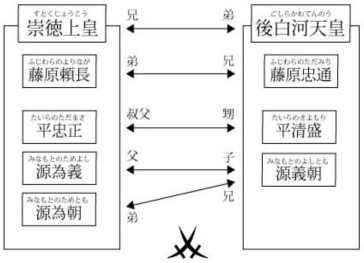
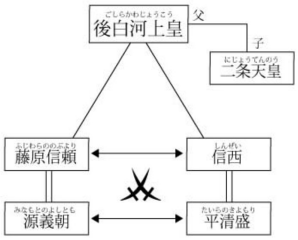
歴史の項目の中でも受験生をなやませる問題ですが・・・要は、平家はこの保元の乱、平治の乱二度の合戦に勝って、手柄を立て、破竹の勢いになり、一方の源氏は負けて、地方においやられて屈辱をなめることになった、ということです。一時期の与野党逆転のような・・・

今回は「平家物語」の前の段階の話をしました。

次回から、いよいよ平家物語の異世界をご案内します。

パパンパンパンパン

1156年　保元の乱　関係図



1159年　平治の乱　関係図